

主催：公益財団法人大倉精神文化研究所 共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

大倉山講演会

世のために田を耕す - 実業家の教育・福祉活動 -

令和6年6月15日(土)

要事前申込
(詳細裏面)

救貧から防貧へ — 養育院経営が導いた渋沢栄一の福祉観 —

500もの会社経営に関わった大実業家として知られる^{しぶさわえいいち}渋沢栄一。若き渋沢がめざしたのは、商工蔑視の国・日本を西洋のような商工業中心の国に変えることでした。一方で「偶然」「いきがかり」(渋沢談)で、1874(明治7)年から救貧施設「養育院」の経営に携わっています。幕府瓦解の混乱で東京中にあふれた失業者・浮浪者も、西洋式の事業形態(=株式会社)が増えれば仕事に就ける。貧困は怠け者の自業自得。そう、30代までの渋沢は考えていました。

ところが、西洋式の商工業は日本に根つき、巨大企業が続々と出現しても、極貧の生活困窮者は減るどころか増えるばかり。商工業の発達が社会の闇を広げる現実に直面しました。渋沢は1931(昭和6)年に亡くなるまでの約50年間、養育院院長を務め、東京の貧困層の現状や貧困層に対する蔑視とも、自分の仕事として四つに組み続けました。

渋沢はなぜ養育院院長であり続けたのか、その中で渋沢の社会福祉の考えが「貧困は自業自得」からどう変わったか、その結果どのような晩年を送ったのか、を見ていきます。

◇時間：午後2時～3時30分(開場は午後1時45分)

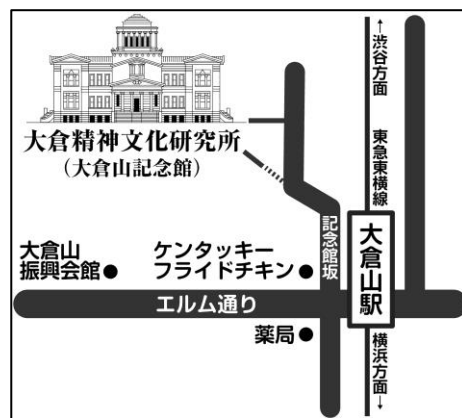
◇会場：横浜市大倉山記念館 ホール

横浜市港北区大倉山二丁目10-1 大倉山公園内
(東急東横線大倉山駅下車徒歩7分)

◇講師：^{みやもと こういち}宮本 孝一 (東京都健康長寿医療センター
老年学情報センター 司書)

◇定員：80名(入場無料、要申込・先着順)

◇申込方法：詳細は裏面をご覧ください



次回予告 7月6日(土) 公開講演会 「東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア」 講師：
加納 寛(愛知大学副学長)

大倉山講演会 救貧から防貧へ

申込書

ご提供いただいた個人情報は、講演会への参加確認、並びに延期・中止が決定した場合のご通知のためにのみ利用させていただきます。
なお、本講演会の終了後、速やかに廃棄いたします。

① FAXによるお申込み：下記の空欄を記入して、本紙を送る

FAX 045-542-0051

<p>ご氏名（よみ）</p> <p>複数名の場合は全員の氏名を ご記入ください</p>	
<p>ご連絡先</p> <p>複数名の場合は代表者のみを ご記入ください</p>	<p>できるだけメールアドレスでお願いいたします</p>

② メールによるお申込み：下記のメールアドレス宛に、「ご氏名」を入力して送る（複数名の場合は全員のご氏名をお知らせください）

Okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp



📱 こちらから、メールアドレスを読み取れます。

③ 参加申込フォームからのお申込み

下記の QR コードを読み取り、必要事項を入力する



問い合わせ先

公益財団法人
大倉精神文化研究所

TEL 045-834-6637

研究所ホームページ

